



総監部法務官室による職務教育



東部方面システム通信群によるVTC教育

方面隊は7月24日から予備自衛官補(技能)教育訓練を実施した。予備自衛官補(技能)は、衛

予備自衛官補(技能)教育訓練 専門資格保有者に対し教育訓練

生・語学・整備・システム防護・情報処理・通信・電気・建設・放射線管理・法務・人事と口の技能に区分されており、専門の資格を保有している自衛官経験者の志願・試験によって採用され、2年以内10日の教育訓練を修了すると、技能公募予備自衛官として任用される制度であり、方面隊は

7月1日付で約140人を用いた。教育訓練を担任する第117教育大隊では、技能区分毎2つに分けて、年間6回ずつ計12回の教育訓練を計画しており、今回は衛生・法務・サイバー防護・情報処理・通信・人事の教育訓練を実施し、20人の予備自衛官補(技能)が参加した。普段は民間人としてそれぞれの職業に従事している参加者にとっては初

めの自衛隊の教育訓練であり、期待と緊張感をもって臨むとともに、有事等における予備自衛官制度の役割と必要性について認識する等有意義な教育訓練となった。技能公募予備自衛官の重要性は近年益々高まっており、令和6年度前半島地震では、医師及び看護師の技能公募予備自衛官が災害において巡回診療を実施する等の活躍をしている。

東部方面隊オピニオンリーダー 東北方面区で研修

陸・海・空自衛隊の任務と現状を理解

総監部は7月23日から25日までの間、東部方面隊オピニオンリーダー東北方面区研修支援を実施した。本研修は東部方面隊オピニオンリーダーに東部方面隊以外の方面区に所在する自衛隊の駐屯地及び基地研修を通じ、自衛隊に対する理解を深め、

1活動の資とする目的で毎年1回実施している。今年度は東北方面区に赴き、青森駐屯地(23日)、海上自衛隊大湊基地(24日)、航空自衛隊三沢基地(25日)を研修した。青森駐屯地では第9師団長表敬、概況説明、装備品展示、隊員との懇談、ねぶた総合訓練見学

等を行った。概況説明では、実動演習である「みちのくアラート」の概要及び津軽海峡の警戒監視要領等の説明を受けた。大湊基地では総監表敬、1万トンドック見学、護衛艦「ちくま」見学、体験喫食等を行った。概況説明では沿革、地理的特性、任務、編成・組織、地域への協力

災害派遣活動等について説明を受け、参加者は北方防衛の任務における緊張感を肌で感じる事ができた。三沢基地では早期警戒機、無人偵察機、米軍F-16戦闘機の展示説明を受けた。概況説明において参加者は、米軍をはじめ地域、自治体等との連携の重要性を認識することができた。

研修を通じ参加者からは「普段から地域との連携が大切であることが分かった」「それぞれの部隊で、隊員が一生懸命説明してくれたことに感激した」「今回研修したことを好機と捉えて、さまざまな場所で発信していきたい」との感想があった。

本研修を通じて、オピニオンリーダーに陸海空自衛隊の任務及び現状について理解を深めていただき、隊員募集の促進や、各地域・国民各層への情報発信の資としてもらうことができた。



装備品展示(青森駐屯地)



1万トンドックの説明(大湊基地)

7年間で281件情報獲得 昨年度7人入隊に貢献



3級賞詞を受賞する12高射 山崎准尉

7月26日、総監部で実施された隊員自主募集表彰において、第12高射特科隊先任上級曹長の山崎准尉が方面総監から3級賞詞を授与された。今回受賞に至った山崎准尉の隊員自主募集情報獲得のきっかけや経緯と具体的な取り組みについて紹介する。

私は令和5年度、63件の情報を獲得し、その内7人合格全員が入隊しました。令和5年度に限らず、過去7年間の合計で情報獲得281件、合格24人、入隊者20人と方面隊の人員獲得に貢献できました。私がこのように情報を獲得できるようにしたのは、息子が入隊に至るまでの経験の中で、募集対象者に小さい頃から広報することの重要性について感じたことがきっかけでした。

今年度も募集が非常に厳しい状況は変わらず、隊員自主募集情報は隊員獲得のため重要な情報である。各隊員は山崎准尉のように、後輩隊員獲得のため自衛隊の良さを発信できるように心掛けてもらいたい。

令和6年度前期定期表彰 14個部隊 個人43人を表彰



隊員自主募集で第3級賞詞を受賞した隊員



第3級賞状を受賞した古河駐屯地業務隊

方面隊は7月26日、方面隊の隊務運営に寄与した部隊及び顕著な功績のあった隊員に対し、その功績を称えるとともに士気の高揚を図ることを目的として、令和6年度前期定期表彰を実施した。表彰式では業務隊等に対する部隊表彰で14個部隊に賞状が授与された。また、職務遂行等の功績による個人表彰で52人の隊員に賞詞が授与された。

- 【第3級賞状受賞部隊】(業務隊等) 古河駐屯地業務隊 練馬駐屯地業務隊 システム通信・サイバー学校 (隊員自主募集) 新発田駐屯地業務隊 第1特殊武器防護隊 第12高射特科隊

第12旅団

雄大な北の大地で各種訓練

第2次旅団訓練検閲、中重砲射撃

旅団は7月4日から24日までの間、矢白別演習場及び北海道大演習場において、令和6年度中・重砲射撃訓練及び令和6年度北海道トレーニング

センター訓練(以下「H T C訓練」)に第30普通科連隊を参加させるとともに、H T C訓練の場を活用して第2次旅団訓練検閲を行い、同連隊の練

度を評価・判定した。本訓練開始に当たり7月2日、新発田駐屯地で訓練開始式が行われた。30普通連に対し旅団長は、訓示の中で「指揮の要訣の実践」「戦闘力の組織化」「安全管理の徹底」の3点を要望して訓練は開始された。

訓練開始式後に出発した30普通連の中・重砲射撃の部隊及び旅団隷下部隊が新発田駐屯地を出発し、長距離機動後、北海道大演習場において合流し、訓練検閲に臨んだ。

旅団はH T C訓練参加に当たり、30普通連を基幹とした野戦特科部隊を含む諸職種協同の第30戦闘団(戦闘団長 第30普通科連隊長)を編成。旅団から先遣された戦闘団としての任務完遂を期して訓練は開始された。

第30戦闘団は綿密な防衛準備の後、対抗部隊となる第7師団の第11戦闘団との防衛戦闘を開始。地形を熟知した対抗部隊に対し、戦闘力を組織化し不撓不屈の執念で闘いに挑み、積極果敢に敵の滅殺に努めた。

30普通連は記録的な猛暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。



30普通連長(中央)による現地指導(北海道大演習場)



フェリーによる長距離機動(小樽港)



中重砲射撃(矢白別演習場)

8日からは30普通連主力の部隊及び旅団隷下部隊が新発田駐屯地を出発し、長距離機動後、北海道大演習場において合流し、訓練検閲に臨んだ。

旅団はH T C訓練参加に当たり、30普通連を基幹とした野戦特科部隊を含む諸職種協同の第30戦闘団(戦闘団長 第30普通科連隊長)を編成。旅団から先遣された戦闘団としての任務完遂を期して訓練は開始された。

第30戦闘団は綿密な防衛準備の後、対抗部隊となる第7師団の第11戦闘団との防衛戦闘を開始。地形を熟知した対抗部隊に対し、戦闘力を組織化し不撓不屈の執念で闘いに挑み、積極果敢に敵の滅殺に努めた。

30普通連は記録的な猛暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。



レンジャーき章の授与

20名のレンジャー隊員誕生

第16期旅団レンジャー帰還式

旅団は7月13日、第2普通科連隊長を担任官として、3カ月間実施した令和6年度旅団レンジャー集合教育(養成訓練)の帰還式を行った。行動訓練の最終想定を終え、満身創痍の中、最後の力を振り絞り高田駐屯地に凱旋した20人のレ

ンジャー学生は、駐屯地の所在隊員や隊員家族が見守る中、旅団長に帰還報告を行い、旅団長から学生一人一人にレンジャーき章が授与された。旅団長は訓示で「任務完遂おめでとう。3カ月に渡り非常に過酷な訓練を全て完遂したと認める。それ

ぞれの部隊に戻り、自らの研鑽に励み、他の隊員の模範となり、任務を遂行しなければならぬと、能力を最大限発揮できるように引き続き自己の練習に努めてもらいたい(要旨)と学生らを心から労った。

帰還式後レンジャー学生らは、出迎えた上司・同僚や家族と再会し祝福され、約3カ月の過酷な日々を振り返り、話に笑顔の花が咲いていた。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

暑が続く北海道で、これまでの部隊訓練等で積み上げた訓練成果を遺憾なく発揮し、7夜8日にわたる戦闘を実施、連隊長を核として一致団結し任務を完遂した。

12偵戦大

小隊戦闘射撃を実施

令和6年度第4回部隊火器射撃



砂塵が舞う中、行進射撃する16式機動戦闘車

第12偵察戦闘大隊は7月3日から10日までの間、東富士演習場において第4回部隊火器射撃を行い、16式機動戦闘車、87式偵察警戒車の搭載火器及び車載機関銃、60mm迫撃砲の射撃練度の向上を図った。

併せて大隊は、戦闘小隊及び偵察小隊の戦闘射撃を実施し、指揮官の状況判断・指揮、部隊間の協同連携、各人の相互連携などについて練度向上を図った。

併せて大隊は、戦闘小隊及び偵察小隊の戦闘射撃を実施し、指揮官の状況判断・指揮、部隊間の協同連携、各人の相互連携などについて練度向上を図った。

併せて大隊は、戦闘小隊及び偵察小隊の戦闘射撃を実施し、指揮官の状況判断・指揮、部隊間の協同連携、各人の相互連携などについて練度向上を図った。

猛暑に打ち勝て！新隊員教育

旅団の隷下部隊は、今年の春に入隊し、自衛官候補生課程及び一般曹候補生(前期)を修了した新隊員に対し、7月以降、新隊員特技課程及び一般曹候補生課程(後期)の教育を実施中である。

教育を実施しているのは、旅団隷下の各普通科連隊、第12後方支援隊、第12偵察戦闘大隊及び第12施設隊の6コ部隊の教育隊で、普通科、機甲科、施設科及び需品科の新隊員に対し、教育が行われている。

新隊員らは記録的な猛暑が続く中、教官・助教の指導の下、部隊で即戦力になるための基礎教育となる知識及び技能を段階的に修得して、部隊配属を目指し訓練にまい進していく。



12th BAND

12音 暑さを吹き飛ばす演奏会

サマーコンサート in 足利

第12音楽隊は7月20日、足利市「あしかがフラワーパークプラザ(市民プラザ)」においてコンサートを行い、10曲の演奏を披露した。

この演奏会は足利市の他、各防衛協力団体などの足利支部が主催して行

同音楽隊で足利市出身の柳田2曹が、「君の瞳に恋してる」でフルートを

熱演写真。演奏前に司会から柳田2曹の出身学校が紹介されると、会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こった。柳田2曹は堂々とした優雅で美しいフルートの音色で満員の観衆を魅了した。



障害構成教育(12施設)



16式機動戦闘車整備教育(12偵戦大)



車両積載訓練(12後支)



01式軽対空車誘導弾教育(30普通連)



鉄条網構築訓練(2普通連)



120mm迫撃砲操作訓練(13普通連)

第1施設団 令和6年度団訓練検閲 3個部隊が検閲に挑む

施設団は6月24日から7月5日までの間、東富士演習場、枝川訓練場及び北富士演習場において第5施設群、第306施設隊及び第301タンブ車両中隊に対し団訓練検閲を実施した。



指揮所用掩蓋掩壕構築の様子(第5施設群)

本検閲では訓練検閲課を「各方面の全般支援に任ずる施設群、施設隊及びタンブ車両中隊の行動」とし、武力攻撃予測事態から武力攻撃事態に

おける一連の状況下での行動を確認した。各部隊はこれまでの練成成果を十分に発揮し、被支援部隊の要求及び上級部隊の構想に合致した施設支援に万全を期すべく、指揮所用掩蓋掩壕等の陣地構築、地雷原・対ヘリボン障害等の障害構成、機動路整備、81式自走架柱橋の架設、野門橋の運航等を実施した。



野門橋の運航(第306施設隊) 写真(左) タンブによる骨材運搬(第301タンブ車両中隊)



滑走路応急復旧訓練 航空自衛隊との協同



滑走路の路盤転圧作業の様子



滑走路の路盤改修の様子

施設団は7月7日から14日までの間、航空自衛隊三沢基地において、航空自衛隊(中部航空施設隊)との協同による滑走路応急復旧訓練に参加した。本訓練は空自との協同訓練を通じた滑走路復旧技術の修得を狙いとして行われ、第5施設群が主体となり現有装備及び人員をもって訓練に臨んだ。これまでの空自部隊の研修及び数次にわたる協同訓練での教訓・成果を踏まえ、相互連携を図り任務を完了した。



関東補給処

さらなる理解と連携を モニター 駐屯地を研修

関東補給処は6月29日、霞ヶ浦駐屯地において防衛・駐屯地モニターに対し駐屯地研修を実施した。本研修によりモニターに対し、関東補給処及び駐屯地

の活動概況を理解してもらうとともに、親近感の醸成並びに、今後のモニター活動の資を付与することができた。

地区においてUH-1Jの体験搭乗、航空機の展示・説明及び管制塔での研修を行い、参加したモニターは興味津々に説明を受けていた。

飛行場地区の研修後、広報センターに移動し、関東補給処の活動概況、霞ヶ浦駐屯地の歴史及び装備品の展示・説明を受け、理解を深めた。

研修最後に行った体験喫食では、初めての非常用糧食や戦闘糧食II型に「おいしいです」との声が多く聞かれた。

関東補給処は引き続き、各種イベント等、機会を捉えモニターと連携を図り地域との信頼深化を図っていく。



管制塔での研修



概況説明を受けるモニター

若手事務官等が研修 部隊研修で見識広げる

部隊研修で見識広げる



武器学校での概要説明



装備品の展示・説明

関東補給処は7月18日、若手事務官等に対し武器学校の部隊研修を実施した。研修には、各部・各支隊において令和5年10月以降に採用された新規採用事務官等20人が参加した。

本研修は武器学校の概要及び陸上自衛隊の装備品等を研修させることで、現職務におけるさらなる勤務意欲の向上及び今後のキャリアプラン形成の資とすることを目的とするものである。

武器学校の概要説明、装備品(11式短距離地对空誘導弾システムなど)の展示・説明及び小火器コーナーの見学など充実した内容の研修に、参加した若手事務官等は熱心に耳を傾けていた。



練度判定中の被教育者

らっば手養成へ始動 駐屯地に美しい音色を

関東補給処は6月24日から霞ヶ浦駐屯地において、らっば手養成教育を実施中である。各部、朝日燃料支処及び航空学校霞ヶ浦校から参加した10人の被教育者が、特技「初級らっば」を取得するため、日々練習を重ねている。7月22・23日には東部方面音楽隊のトランペット奏者(最先任)から技術指導があり、吹奏のコツから体のケアなど、幅広い指導を受けた。教育に参加している霞ヶ浦校の齊木3曹は「個別に技術指導の時間があり、とても分かりやすく吹奏技術の習得ができ」と話した。

栃木地本 インターンシップを支援 陸・海・空の就業体験

自衛隊栃木地方協力本部 高根沢高校のインターンシップ支援を宇都宮駐屯地、北宇都宮駐屯地、空



手旗信号体験の様子

た。その後もベトナムへ4日間のインターンシップを通じて、生徒5人に陸・海・空の自衛隊の魅力を知ってもらうことができた。

神奈川地本 新教前期教育を終えて 担当広報官と再会

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所は、6月28日、第117教育大隊(武山駐屯地)で開催された第20期一般



担当広報官との記念撮影

入隊時には緊張した表情で自衛隊の門をくぐった彼らだったが、約3カ月の前期教育を終えて卒業式に臨む姿は自信に満ちていて、式典終了後は、久しぶりの家族との再会に安堵の表情を浮かべ、教育中のエピソードや配置された職種と今後の教育などについて笑顔で話していた。

また担当広報官に「後期教育は水陸機動団にいけます！泳ぎは得意なので自信があります！職種は情報科に決まりました。具体的に何をやるかまだ分かりませんが、とにかく

訓練所感

東部方面会計隊 2等陸尉 鈴木 達志



新隊員教育隊に参加して

私は令和6年6月から9月までの間、東部方面会計隊新隊員教育隊区隊長として朝霞駐屯地で勤務しております。教育を修了した新隊員は、各駐屯地に所

て教育を実施することの難しさを肌で感じることができました。また隊員一人一人が理解できるように説明することの難しさ、教えることの大きさも学ぶことができました。

新潟地本 20年ぶり・悲願の1級賞状受賞 令和5年度優秀地方協力本部表彰

新潟地本は令和5年度 表彰において第1級賞状 優秀自衛隊地方協力本部 を、優秀広報官として長



記念撮影

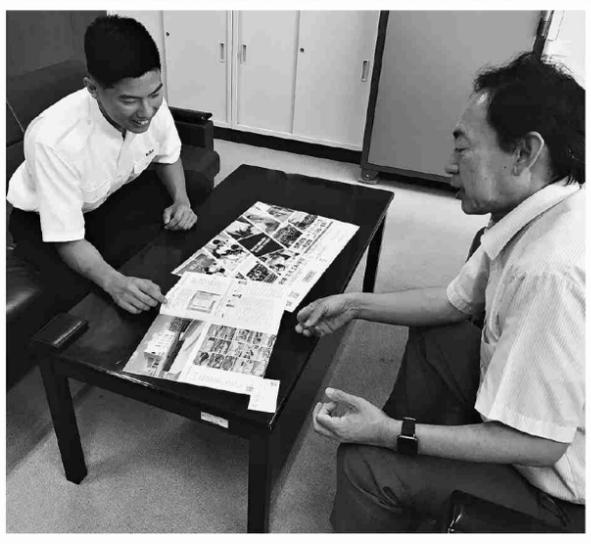
岡出張所笠原1曹が第2級賞状を受賞した。これは令和5年度の募集・援護等業務において顕著な成果があった地本

と優秀な成果を収めた広報官に対し授与されるものであり、日々、所属隊員が目標達成のため努力を重ねるとともに、協力



第2級賞状を受賞した笠原1曹

群馬地本 高等工科学校生徒による近況報告 母校にて恩師との再会



恩師に近況を報告する高等工科学校生徒

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は、6月21日及び22日、高等工科学校生徒4人による母校訪問の同行及び保護者説明会を実施した。

初日は出身中学校を訪問し、校長先生及び恩師に対して、高等工科学校での生活や学校の特徴などについて、自身の体験談を交えた報告を実施した。

最先任 上級曹長

「義務の履行」 東部方面航空隊 山内 覚 准陸尉



令和5年8月1日付で第5代東部方面航空隊兼空中機動等の各種戦闘・戦闘支援等を実施し、その他の任務として災害等各種事態への即応があります。昨今の世界情勢はガザの紛争、ロシアによる

ウクライナ侵攻、台湾有事、北朝鮮ミサイル問題など隣国を含めた緊迫状態にあり、ゲリラ豪雨、山林火災、首都直下地震、南海トラフ地震等の蓋然性の高い災害危機も予想されています。航空隊はこれらの活動時、ヘリコプターにより情報を収集する方面隊の目と

態勢の確保は特に重要で、航空隊長の要望事項である「プロであれ」「絆の強化」「組織力の発揮」を具現化するため、最先任上級曹長として「義務の履行」を掲げ准曹士の職務指導を実施しています。自衛官に必要な義務において「指定場所に居住」「職務遂行」「職務に専念」の義務は即応態勢の確保に直結します。隊員自ら、これを認識し実践しなければなりません。例えば、災害情報アプリによる災害一次情報

予備自衛官 新潟地方協力本部 有馬 博宣



私は半年間の予備自衛官補期間を経て、平成30年1月に技能公募予備自衛官に任用されました。技術区分は語学(英語)。毎年の招集訓練に加え、この技術によりこれまで数度の転地訓練と、一昨年末には令和4年度日米共同方面隊指揮官所演習にも参加させていただきました。現在は法律の単科大学校、新潟法律大学校で教務部長の職にあり、法曹資格や公務員試験の受験指導に携わっています。予備自衛官に任用された後、技能公募予備自衛官として日々訓練に励んでいます。予備自衛官に任用された後、技能公募予備自衛官として日々訓練に励んでいます。予備自衛官に任用された後、技能公募予備自衛官として日々訓練に励んでいます。

「勝利は苦しさを越えて」 第12高射特科隊 都倉 夏希 3等陸曹

現在は近SAM小隊で勤務しています。令和6年5月、育児休業から復帰したため、勤務要領を思い出しつつ勤務させてもらっています。

Q4・好きな言葉は？
「勝利は苦しさを越えて」です。母の影響で幼少期よりバレーボールを習い始め、青春をバレーボールに注ぎ、全国大会への出場も経験しました。学生時代は辛く苦しい練習でも、これを超える先には必ず勝利があると思えてバレーボールに打ち込んでいます。今でもその経験や日々を過ごしています。

Q5・今後の目標は？
今後は、仕事と子育てをしっかりと両立し、息子にとって自慢の母親となるように頑張りたいです。

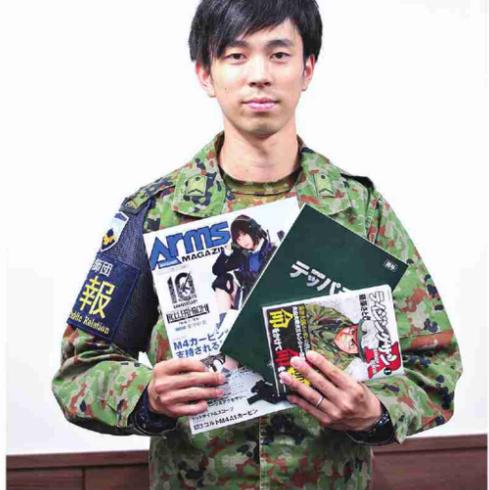
今月のフェアレディは、第12高射特科隊の都倉夏希3曹です。都倉3曹は東京都葛飾区出身の26歳。平成29年に入隊し、現在は相馬原駐屯地に所在する第12高射特科隊近SAM小隊で勤務しています。



Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
人の役に立つ仕事が多かったこと、バレーボールで培った体力や精神力を生かせる仕事が多かったからです。

今月の東方男児は第1師団司令部付隊に所属する田中雄大3曹です。岩手県盛岡市出身で30歳の田中3曹は、少年野球時代に大谷翔平をセカンドゴロに打ち取った逸材、現在は師団司令部広報班の広報陸曹として様々な任務に対応できる守

東方男児 「架け橋～繋ぐ～」 第1師団司令部付隊 田中 雄大 3等陸曹



Q2・職種と選んだ理由
高校2年生の時に岩手で被災して全国から自衛隊に入隊を決意しました。

Q3・現在の業務と苦労すること
現在は広報業務を行っています。広報写真記録や取材対応など業務は幅広いです。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q4・モットーは？
広報業務は人と人の架け橋となる仕事だと自分は思っています。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q5・今後の目標は？
広報陸曹になって1年目であり、まだまだ未熟な点も多いので、早く一人前になれるように頑張っています。

Q1・入隊の動機は？
祖父が自衛官だったので、その影響が大きいです。また小学校から高校まで野球を続けていたのでも、体力的にも自信があったので入隊を決意しました。

Q2・職種と選んだ理由
高校2年生の時に岩手で被災して全国から自衛隊に入隊を決意しました。

Q3・現在の業務と苦労すること
現在は広報業務を行っています。広報写真記録や取材対応など業務は幅広いです。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q4・モットーは？
広報業務は人と人の架け橋となる仕事だと自分は思っています。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q5・今後の目標は？
広報陸曹になって1年目であり、まだまだ未熟な点も多いので、早く一人前になれるように頑張っています。

Q1・入隊の動機は？
祖父が自衛官だったので、その影響が大きいです。また小学校から高校まで野球を続けていたのでも、体力的にも自信があったので入隊を決意しました。

Q2・職種と選んだ理由
高校2年生の時に岩手で被災して全国から自衛隊に入隊を決意しました。

Q3・現在の業務と苦労すること
現在は広報業務を行っています。広報写真記録や取材対応など業務は幅広いです。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q4・モットーは？
広報業務は人と人の架け橋となる仕事だと自分は思っています。取材対応では著名人も来隊する中、取材側と取材を受ける部隊の間に立って、取材自体がスムーズにいくよう場の空気作りなど苦労する点も多いですが、やりがいがあります。

Q5・今後の目標は？
広報陸曹になって1年目であり、まだまだ未熟な点も多いので、早く一人前になれるように頑張っています。

暑い夏、真つただ中です！
そして暑いのは夏だけではなく、暑いオリンピックが絶賛開催中！
普段の生活の中では、自分から求めていかないと自分日本人ということや、日本らしさというものを感ずることはあまりないと思います。が、オリンピックのような世界的スポーツの祭典が開催されると、多くの日本人が日の丸を掲げて選手に声援を送り、日本人の礼儀正しさを誇りに感じます。私も夜な夜な選手の真剣な眼差しや限界に挑む姿に、手に汗握って声まで出して応援し、感動しっぱなしです。

一方、日本各地では地域の夏祭りも真つただ中ではないでしょうか。

昨日、朝霞の彩夏祭に行ってきました。どのチームもはじけんばりの笑顔での挨拶から始まり、鳴子を手にこれでもかというくらい元気いっぱい、の演舞、最後は丁寧に礼をされていました。最近の若者は、競争心がない、インドア化しているなど聞きますが、この夏はそんなことを微塵も感じさせない若者の逞しさと頼もしさをたくさん触れ、まだまだ日本は元気だと感じています。しばらく暑い夏が続きますが、晴天雨天より能天気！顔を上げていきましょう！
「カンパレ、ニッポン!!」

編集後記

暑い夏、真つただ中です！
そして暑いのは夏だけではなく、暑いオリンピックが絶賛開催中！
普段の生活の中では、自分から求めていかないと自分日本人ということや、日本らしさというものを感ずることはあまりないと思います。が、オリンピックのような世界的スポーツの祭典が開催されると、多くの日本人が日の丸を掲げて選手に声援を送り、日本人の礼儀正しさを誇りに感じます。私も夜な夜な選手の真剣な眼差しや限界に挑む姿に、手に汗握って声まで出して応援し、感動しっぱなしです。

一方、日本各地では地域の夏祭りも真つただ中ではないでしょうか。

昨日、朝霞の彩夏祭に行ってきました。どのチームもはじけんばりの笑顔での挨拶から始まり、鳴子を手にこれでもかというくらい元気いっぱい、の演舞、最後は丁寧に礼をされていました。最近の若者は、競争心がない、インドア化しているなど聞きますが、この夏はそんなことを微塵も感じさせない若者の逞しさと頼もしさをたくさん触れ、まだまだ日本は元気だと感じています。しばらく暑い夏が続きますが、晴天雨天より能天気！顔を上げていきましょう！
「カンパレ、ニッポン!!」